

2023年
1月1日
第2号

ほくとぴあ

第28回全国交流集会
東京現地実行委員会ニュース
発行責任者 奥山 信義
編集責任者 千葉愛一郎

東京ブロック全国交流集会スローガン

交流が力、つなげよう次世代に!



——— 東京都協連事務局長 槍崎文雄の決意 ———

斉藤邦彦前事務局長が、両足膝・外反母趾の手術、入院、リハビリで約3年間の

闘病生活に入るといふことで、私が事務局長の任に就くことになりました。よろしくお願いいたします。

さて新型コロナウイルス感染拡大で3年も全国交流集会在開催されずにきましたが、ようやく第28回全国交流集会的開催ができそうで嬉しく思います。

東京ブロックとして、現地実行委員会を立ち上げニュース班、機動班などを構成し、任務分担、それぞれの班の責任者を定めるなど、これまで6回の現地実行委員会を開いてきました。

久しぶりの東京開催で人数制限もある中、東京ブロックから60名の参加者を結集しようと進めているところです。コロナ感染拡大の第8波が到来しつつあり、感染者が増えています。東京ブロック一丸となって、感染拡大に留意しながら全国交流集会的成功を期するよう頑張ります。

「北とぴあ」会場で全国の仲間をお待ちしています。

——— 関東もようやく会えるように！努力の積み上げが成功の力 ———

関東事務局 小林精一

関東では4月の幹事会まではオンライン開催でしたが、4月の関東女性講座、6月の関東拡大幹事会総会からはようやく、対面での幹事会を開催してきました。同じ顔を合わせるにしても、パソコンの画面でなく、対面で会って、話し合えるのは、討論が深まる



だけでなく、関東各県の担い手が、友の会年間方針に基づいて第一学習会を軸に『月刊まなぶ』の拡大リストアップによる取り組み、仲間づくり、担い手づくり等を、見直しのメモ化の相互討論から個人方針として、課題を持って取り組んでいる事が報告され、こんな状況でもみんな頑張っている事が分かり、大いに勇気づけられました。やはり交流は必要だと再確認できました。

関東幹事会をオンラインで開催していた時から、各県協の活動報告は、A4版1枚程度にまとめ事前に配布されていたので、それが対面になっても継続されていた事も、分かりやすく交流が深まったと思います。

諸活動でも、県読者大会は群馬の一泊をはじめ、埼玉、千葉でアルコール類を飲んで、バーベキューをつまむ等楽しく交流しました。

各県協共通の課題は、高齢化、健康不安ですが、職場で苦闘する現役の読者、会員と共に仲間を拡大しようと、足を運び支え合っています。

この努力の積み上げが、必ず第28回全国交流集会・労大20周年記念集会的成功の力になると意思統一し、頑張っています。

「おすすめスポット」

王子と言えば、民話「王子の狐火」や落語「王子の狐」が有名です。また、治承四年に源頼朝が奉納を得たという「王子稲荷神社」も、毎年晦日に行われる「姉妹社の装束稲荷神社より、狐のお面や装束を身につけた人々が行列して王子稲荷神社へ正月の参拝」する王子狐行列も有名です。しかし、交流集会の合い間に立ち寄るには、創業100年以上の老舗和菓子店「狸家」さん(王子本町1-23-1・都電王子駅前停留場徒歩約5分)の「狸最中」(120円)をお薦めします。香ばしい皮にクリーミーな白あんが詰まった白と、小豆の粒あんが詰まった黒の2種類。注文後にあんを詰めるので、さくっとした食感が楽しめます。ご家族、知人へのお土産にも最適です。



— 『月刊まなぶ』の新しい読者ができた東京西部県協 —

西部県協会長 福田健二

西部県協メンバーは皆、働き続け定年を迎えた。自分自身や連合いの健康問題が避けて通れない年齢になった。しかし、子ども・孫の代に、戦争ができる安保法、放射能汚染、国の借金など、大きな宿題を残した。コロナ禍にあっても「このままでは終われない」気持、活動を続ける必要と理由を議論してきた。

西部県協は、現役時代、何十年経っても忘れられない理不尽な扱い、差別、悔しかった思いを大切にしてきた。それをバネに活動をしてきた。



今年は『月刊まなぶ』の新しい読者ができた。Sさんは元組合の専従書記で、長い間闘いを共にした同志であった。定年後秋田に帰ったが、「このまま終わらせてはいけない人」であった。

メトロの仲間は、「あの時の闘いを共にした仲間」に声をかけOB会を組織した。先日は箱根旅行に10余人が参加した。参加ができなくても、ハガキで近況交流がされた。

12月3日の第44回総会では、各諸行事には創る側で参加しようと意思統一した。

— 指令・指示待ちの運動の克服を!秋田のNさん、全国交流集会参加の決意表明! —

東部県協事務局長 島田 実

第44回東京東部県協総会は、コロナ禍で今回も短縮「半日開催」としました。7友の会25名の会員と来賓2名が参加しました。コロナ禍で、第一学習会に参加できない会員と連絡を密に取り合っている。読者に合わせて苦勞しながら配本・集金しているなどの報告がありました。

今回は、退職後に秋田県にかほ市にUターンし、地元で活動しているNさんが出席し、「[にかほ市・由利本荘市] 付近で共に活動している仲間に向けて、学習会を行いたい」、また「6月開催の全国交流集会と労大再建20周年記念集会に参加する」と力強い発言がありました。

最後に佐久間会長から、今日提起した年間方針の実践のためには、言葉を変えれば個人方針の確立です。一人では難しい課題なので、友の会第一学習会や県協集団指導体制(班会議)での相互討論を通して確立していきましょう。指令・指示待ちの運動の克服が重要だと、全体集約されました。